

研究課題名：	大腿骨近位部骨折術後患者における骨密度が早期離床に及ぼす影響の検討 -3年間の後方視的調査-
所属（診療科等）：	公立昭和病院（リハビリテーション科）
研究責任者（職名）：	山下 祥紀（主任）
試料・情報の提供責任者： 試料・情報の管理責任者：	公立昭和病院 院長 坂本 哲也
研究期間：	2026年4月17日～2026年9月30日
研究目的と意義：	<p>当院では大腿骨近位部骨折術後患者全例に対して理学療法士が介入し、早期離床および早期 ADL 拡大、そして可能な限りでの在宅復帰を目指して、多職種と協働し支援している。しかしながら、リハビリ場面のみでの車椅子離床や回復期リハビリ転院を迫る症例は少なくない。</p> <p>今回、大腿骨近位部骨折術後患者の骨密度に注目し、術後の早期離床の関連性を明らかにすることを目的とした。</p> <p>研究により、早期離床と骨密度の関連性が明らかとなり、骨粗鬆症患者への一次予防の普及や二次性骨折予防に向けた啓蒙効果が期待される。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2022年7月～2025年7月までの3年間に当院で大腿骨近位部骨折に対して手術施行された方
研究内容： 問い合わせ先：	<ul style="list-style-type: none"> ●利用し、又は提供する試料・情報の項目 <ul style="list-style-type: none"> ・研究対象者背景 研究対象者 ID、性別、既往歴、年齢、身長、体重、BMI、薬剤内服状況、生活背景、病前移動能力、転帰先、等 ・術後離床状況 術後車椅子離床に要した期間、術後付き添い歩行開始に要した期間、退院時歩行能力、等 ●提供する試料・情報の取得方法 電子カルテを後方視的に調査する
	<ul style="list-style-type: none"> ●試料・情報の利用目的及び利用方法（他機関へ提供する場合は、その方法を含む） 本研究では、得られた情報を当院電子カルテシステム上にて管理する。統計解析処理にあたっては、個人の特定に至るような氏名、年齢、固有の患者 ID などの情報は登録せず、患者登録番号と評価項目を記載したデータのみを抽出したデータベースを作成して行う。作成されたデータベースは、パスワードを設定して管理し、研究期間終了後も当院電子カルテシステム上のみで保管する。本研究結果を公表する場合には、研究対象者個人が特定できる情報を含まないよう十分に配慮する。情報の保管期間は、研究の終了について報告された日から5年を経過した日又は研究結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日までの期間とする。保管期間終了後は、紙媒体に関してはシュレッダーで裁断し廃棄する。その他媒体に関しては、匿名化のうえ適切な方法で廃棄する。 ●利用する者の範囲（当該研究を実施する全ての共同研究機関の名称及び研究責任者の氏名） 公立昭和病院

【研究担当者】（研究全般に関すること）

例 1. 研究計画や研究方法に関する資料の入手・閲覧に関すること

例 2. 試料・情報の利用又は多機関への提供を停止する旨に関すること

例 3. 研究により得られた結果等に関すること

氏名：山下 祥紀（リハビリテーション科）

住所：小平市花小金井 8 丁目 1 番 1 号

電話：042（461）0052（代表） FAX：042（464）7912

【ご意見・相談窓口】（研究・診療内容に関するものは除く）

総務課 042（461）0052 内線 2247

受付時間：月～金 9:00～17:00（祝・祭日を除く）